



サクサグループ

環境報告書

2014



目次

目次	2
編集方針	2
会社概要	2
事業概要	2
環境報告書2014について	3
環境管理のあゆみ	3
環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化	3
ごあいさつ	4
サクサグループ環境宣言・環境方針	5
サクサグループ環境中期計画	5
環境保全活動推進組織体制	6
環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況	6
製品の環境配慮	7~8
環境配慮設計に関わる制度	7
サクサエコ商品	8
事業活動に関する環境配慮	9~11
地球温暖化防止・省エネルギー	9
廃棄物削減・循環資源化	9
化学物質管理、ポリ塩化ビフェニルの管理、規制遵守状況	10
緊急事態対応、環境教育・啓蒙活動	11
2013年度(平成25年度)環境目標達成状況	11
2013年度(平成25年度)環境負荷物質の投入・排出	11
社会貢献活動を通じた環境への寄与	12

会社概要

商号	サクサホールディングス株式会社
本社所在地	〒108-8050 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
設立	2004年2月2日
資本金	108億円(2014年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 越川 雅生
年間売上高	431億円(2014年3月期実績・連結)
グループ従業員数	1,316名(2014年3月31日現在)
経営理念	独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、 活力とゆとりある社会の発展に貢献する
＜サクサグループ(2014年3月31日時点)＞ 連結決算範囲	
サクサホールディングス株式会社(持株会社)	
└ サクサ株式会社(中核事業会社)	
└ サクサテク/株式会社(生産会社)	
└ 株式会社コアタック(生産会社)	
└ サクサテクニカルサービス株式会社(修理会社)	
└ サクサシステムエンジニアリング株式会社(システム開発会社)	
└ 株式会社システム・ケイ(システム開発会社) ※1	
└ サクサプロアシスト株式会社(グループ内サービス会社)	
└ サクサプレジジョン株式会社(生産販売会社)	
└ サクサビジネスシステム株式会社(販売・保守サービス会社) ※2	
※1 サクサグループ環境保全活動推進組織外であるため、本報告書での活動実績には含まれていません。	
※2 保守サービス会社サクサアドバンスサポート株式会社と販売会社サクサビジネスシステム株式会社は、2013年6月1日付で合併し、商号をサクサビジネスシステム株式会社としています。	
上記企業のほか、持分法適用関連会社として、株式会社ネクストジェンがあります。	
連結決算範囲外のグループ企業	
株式会社マイスター(システム開発会社)	
株式会社ネットリソースマネジメント	
(オフィス向けサービス提供会社)	
東莞可比世电子有限公司(中国・生産会社) …サクサプレジジョン株式会社の 子会社	

編集方針

参照ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)を可能な範囲において参考にし、作成しています。
公表媒体	本報告書は、紙資源使用抑制の観点から、サクサグループホームページでのWebによる公開のみとします。 http://www.saxa.co.jp/ 「環境への取り組み」
発行日	2014年9月26日(毎年、9月下旬)

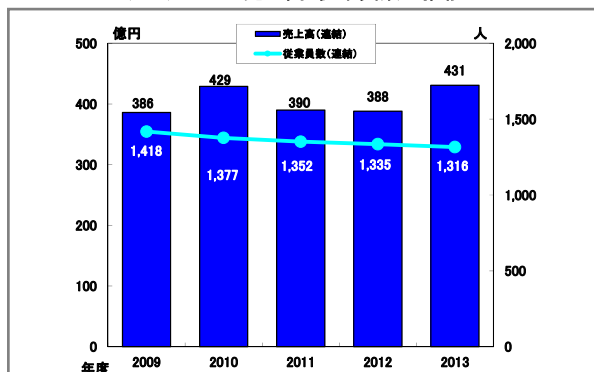
事業概要

サクサグループは、「つなげる技術の、その先へ。」をコーポレートメッセージとし、今まで培ってきたコミュニケーション機器の提供からさらに進化したお客様の安心、安全、快適、便利を実現し、お客様の明日を担う商品、ソリューションの提供を目指す企業グループです。

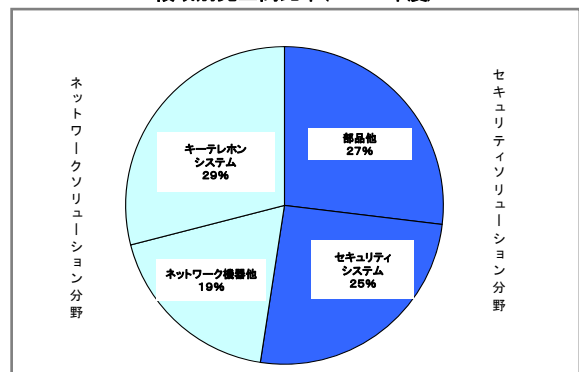
事業領域 <ソリューション・商品>

IP対応中規模事業所向けキーテレホンシステム、IP電話機、IPインターホン、IPドアホン、光関連機器、ネットワーク応用機器、VoIP通話録音システム、警備保障会社向け警備システム、火災通報装置、オートホンシステム、ホームセキュリティシステム、インターネットカメラシステム、キャンパス・企業向けカードシステム、一斉配信システム、TV会議/Web会議システム、各種カードR/W、ネットワークビデオレコーダ、警報機、センサ関連商品、画像認識システムおよびこれら商品によるソリューションの提供

サクサグループ売上高・従業員数の推移



領域別売上高比率(2013年度)



会社概要、事業概要等の詳細については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp/>)の「企業情報」および「株主・投資家の皆様へ」に掲載した公表資料等で、また、ソリューション・商品の詳細は「製品・システム情報」「ソリューション」でご覧になることができます。

環境報告書2014について

対 象 期 間	本環境報告書は、2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)における状況、成果等を公開するものですが、内容により、当該年度前後の事項に関するものを含む場合があります。必要に応じ時期を記載します。																																																																						
活動結果、実績等に関する対象範囲(商号、所在地およびこれに関わる情報は、2014年6月24日現在のものです。)	<p>本報告書に記載した内容は、以下のグループ企業によるものです。 必要により、これ以外のグループ企業、拠点等に関する情報を記載する場合は、会社名、拠点名等を記載します。 なお、エネルギー使用量、廃棄物のデータは、自社で直接把握、管理できる範囲としてサクサグループ所有事業場について集計、記載しています。2012(H24)年度までは、サクサプレジジョン株式会社埼玉本社を含む6事業場、2013(H25)年度は、以下の表の②～⑥の5事業場です。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>⑥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サクサホールディングス株式会社</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサ株式会社</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサシステムエンジニアリング株式会社</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>サクサテクノ株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサプレジジョン株式会社 ※1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>株式会社コアタック</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサビジネスシステム株式会社 ※2</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサテクノカルサービス株式会社</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサプロアシスト株式会社</td> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎:本社(または本社機能)所在地、○:その他の事業所等 ①はテナントとして入居 ① 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー ② 神奈川県相模原市中央区宮下3-14-15 ③ 山形県米沢市東1-10-71 ④ 山形県米沢市八幡原4-3146-13 ⑤ 山形県米沢市中田町1713 ⑥ 青森県八戸市北インター工業団地1-3-54 ※1 2013年4月をもって埼玉県鴻巣市における事業活動を終了しました。 なお、本店は2014年5月23日付で東京都新宿区に移転しました。(本店 : 東京都新宿区新宿1-4-8) ※2 2013年6月1日付でサクサアドバンスサポート株式会社とサクサビジネスシステム株式会社が合併。 相模原オフィスにおける エネルギー、廃棄物のデータのみ集計範囲に入っています。 (本社 : 東京都品川区東五反田 1-7-6 藤和東五反田ビル)</p>		①	②	③	④	⑤	⑥	サクサホールディングス株式会社	◎						サクサ株式会社	◎	○	○				サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎	サクサテクノ株式会社				◎			サクサプレジジョン株式会社 ※1					◎		株式会社コアタック			◎				サクサビジネスシステム株式会社 ※2	○	○					サクサテクノカルサービス株式会社			◎				サクサプロアシスト株式会社		◎	○			
	①	②	③	④	⑤	⑥																																																																	
サクサホールディングス株式会社	◎																																																																						
サクサ株式会社	◎	○	○																																																																				
サクサシステムエンジニアリング株式会社		○				◎																																																																	
サクサテクノ株式会社				◎																																																																			
サクサプレジジョン株式会社 ※1					◎																																																																		
株式会社コアタック			◎																																																																				
サクサビジネスシステム株式会社 ※2	○	○																																																																					
サクサテクノカルサービス株式会社			◎																																																																				
サクサプロアシスト株式会社		◎	○																																																																				
お 問 合 せ 先	サクサホールディングス株式会社 CSR推進室 〒108-8050 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー TEL:03-5791-5511 FAX:03-5791-5562 E-mail:eco@saxa.co.jp																																																																						

環境管理の歩み

年	主 な 出 来 事
2004(H16)	サクサグループ発足、グループ一体となった環境マネジメントシステムを構築、運用開始(4月)
2005(H17)	・サクサ株式会社として ISO14001 認証取得済みの本社、相模原、米沢地区に加え、中延事業場を、また、関連事業所としてサクサシステムエンジニアリング株式会社(青森県八戸市)、サクサテクノカルサービス株式会社(栃木県矢板市)を拡大登録、グループ一体となった認証を取得(3月)(注:最新の認証登録範囲は6ページに記載) ・サクサエコ製品基準制定、認定開始(4月)
2006(H18)	・閉鎖事業場(目黒・中延・栃木)からのポリ塩化ビフェニル使用機器移動、届出完了(～3月) ・ISO14001 2004年版認証へ移行(3月) ・有害元素蛍光X線検査装置稼働開始(4月) ・サクサ相模原オフィス 5トンボイラー廃止(5月)
2009(H21)	・サクサグループグリーン調達ガイドラインをホームページに公開(6月)
2011(H23)～2012(H24)	・CSRの一環としての環境保全活動の位置付けを明確にするため、サクサホールディングス株式会社に環境保全活動の主管部門を設置(2011年4月)、ISO14001 認証登録企業もサクサホールディング株式会社に変更(2012年3月)
2012(H24)	・サクサ米沢事業場のボイラー廃止(11月)、大気汚染防止法ばい煙発生施設の該当施設は全廃
2013(H25)	・サクサ米沢事業場保管の廃PCB(コンデンサ7台)について廃棄処理完了(8月)

環境管理に影響を及ぼす事業環境等の変化

2013年度、サクサグループの環境管理に影響を及ぼす事業環境上の変化は次のとおりです。

(既に環境報告書2013に記載した事項および2014年度上期の情報を含みます。)

環境管理上に影響を及ぼす事業環境等の変化	対 応
サクサプレジジョン株式会社は、2013年4月をもって埼玉県鴻巣市(本社)における事業活動を終了しました。 その後、旧本社土地建物取引にあたり土壌調査を行ったところ、敷地の一部に、「鉛およびその化合物」による汚染があることが判明し、県に報告を行ったところ、汚染部分が土壌汚染防止法に定める「形質変更時届出区域」に指定されました。	県との調整を経て土壌の掘削による除去を行い、2014年7月に「形質変更時届出区域」の指定は解除されました。
サクサアドバンスサポート株式会社とサクサビジネスシステム株式会社は、2013年6月1日付で合併し、商号はサクサビジネスシステム株式会社となりました。(既報)	合併前の旧二社とも、環境規制等に関わる特定施設もなく、環境管理に対する影響はないと判断しています。(既報)

ごあいさつ



サクサホールディングス株式会社
代表取締役社長

越川 雅生

2013年9月に公表された「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」による第5次評価報告書において、地球温暖化は疑う余地がなく、20世紀半ば以降に観測された温暖化の主因は人間活動であった可能性が極めて高いと発表されました。

現在から将来にわたって、温室効果ガスの継続的排出によってもたらされるさらなる温暖化と気候システム全ての要素の変化が地球全体の経済活動に与えるインパクトは計り知れません。将来は、気候変動により人々の生活や環境は変わり、私どもの業種であれば、工場立地、物流などすべての面で現在と同じようにはいなくなる可能性があります。

このように、いまやこれらの影響やリスクは、企業の規模、業種にかかわらず、私たちの企業活動を方向付ける上での重要な要素となっています。すなわち、これらの影響、リスクにどのように対応していくか、また、どのようなサービス、製品を提供することで社会全体のリスク低減に貢献できるかを考えて事業を展開することが、企業の存続、発展には不可欠と言えるでしょう。

サクサグループでは、「事業の拡大」と「経営基盤の強化」に取り組んでいる中で、「事業の拡大」については、成長戦略に沿って、コアコンピタンスである音声と情報通信を融合させた情報通信ネットワーク関連システムの展開と、これら商材とアプリケーションサービスを組み合わせたシステムインテグレーション事業の展開によりお客様が求めているシステムおよびサービスの提供を目指しており、これにより、社会全体のリスク回避や安心、安全、快適、便利な社会環境づくりに貢献できるものと考えております。

サクサグループが提供するシステムおよびサービスでお客様の業務が効率化され、ひいては社会全体の温暖化対策の一助となれることを目指して尽力してまいりますので、皆様からのご支援、ご指導を心からお願い申し上げます。



サクサホールディングス株式会社
常務取締役
CSR推進担当

サクサグループ
環境総括責任者

鈴木 譲

サクサグループでは、経営課題の一つとして「CSR活動の着実な実践」を掲げております。

2013年度の環境活動も「着実な実践」を念頭に、計画をたて、実施してまいりました。

主な活動としては次の事項があげられます。

環境に配慮した製品づくりでは、化学物質関連規制等の進展に対応するため、製品含有化学物質管理規程の見直しやルールの定着化を図り、また、環境配慮設計については、製品の省エネ化に向けた製品環境アセスメント結果の向上に取り組みました。

環境に配慮した事業活動としては、主に省エネルギーと廃棄物削減について、それぞれ改善対象を定めて実施いたしました。

省エネルギーでは、中長期的な電力使用量削減に向け、施策の効果が大きい部分について、省電力生産設備やLED照明の導入、遮熱材の設置を行い、廃棄物ではパレット等のリユース化による削減、工程廃棄物は生産の平準化等、営業、生産部門の連携で削減を図ることができました。

施策や成果のひとつひとつが、次の活動へとつながり、大きな成果をあげられるよう、継続的改善に努めてまいります。

サクサグループ環境宣言・環境方針

サクサグループ環境宣言



サクサグループは、
すべての事業分野において環境に配慮した事業活動を推進し、
自然と調和した持続可能な社会の発展に貢献します。

サクサホールディングス社長

環境方針

環境宣言に基づき、次の行動指針を定め、
サクサグループのひとりひとりが環境保全活動を実行します。

行動指針

1. 地球環境問題が経営における重要課題であるとの認識を持ち、企業としての社会的責任と社会的貢献の役割を果たすため、環境経営を推進します。
2. 情報通信ネットワーク機器ならびにシステム等に関わる開発、設計、製造、販売、保守その他付帯事業を展開していることを踏まえ、グループ一体となって環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全に取り組みます。
3. 内部環境監査およびマネジメントレビューにより環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を推進します。
4. 関連する環境法規制、協定および同意した要求事項、必要に応じて定める自主基準を遵守します。
5. 事業活動、製品、サービスによる、緊急時を含む環境への影響を認識し、適切に管理することにより環境汚染の予防を図ります。
6. 環境方針達成のため、環境に配慮した製品づくり、環境に配慮した事業活動、環境管理を3つの柱とした環境目的・目標を設定し、すべての事業分野をとおして、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、循環資源化、有害物質使用削減等に取り組みます。
7. 地域や取引先をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションを図り、連携して環境の改善に努めます。
8. 環境方針を全従業員に周知し、環境への意識向上を図ります。

環境総括責任者
2011年4月28日改訂

サクサグループ環境中期計画

環境方針に沿って中期計画(環境目的)を策定し、継続的改善に取り組んでいます。

中期計画は、進捗状況および事業環境の変化等に照らして毎年見直しを行い、改訂しています。

この中期計画に基づき、年度ごとに具体的な環境目標を設定し、環境方針の具現化を推進しています。

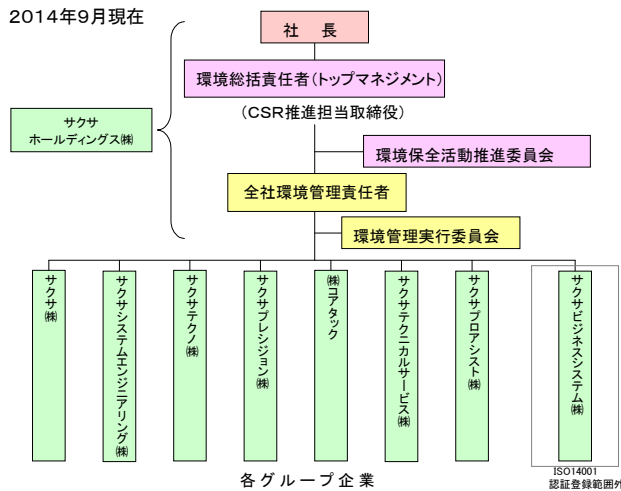
(2014年度版) ☆は、2013年度版から内容変更または追加した箇所

1. 環境に配慮した 製品づくり	(1) 製品含有化学物質管理 製品含有化学物質規制への対応および運用改善 ☆
	(2) 環境配慮製品の拡大・充実 環境配慮設計関連規程類の運用を通じた製品環境配慮の推進 ☆
2. 環境に配慮した 事業活動	(1) 地球温暖化防止 サクサグループ所有事業場(※)において、エネルギー使用量原単位を2020年に向け、年平均1%改善
	(2) 廃棄物等の削減・循環資源化 ① 産業廃棄物排出量原単位の改善(資産等の廃棄に関わるものを除く) ② 事業系一般廃棄物排出量原単位の改善(剪定による木くずを除く)
	(3) 資源の有効活用 用紙使用量削減
3. 環境管理	(1) 環境マネジメントシステムの向上 経営に寄与する環境マネジメントシステムへの改善

※ サクサ相模原オフィス、サクサ米沢事業場、サクサテクノ(八幡原)、サクサプレジジョン(米沢工場)、サクサシステムエンジニアリング(八戸本社)。

環境保全活動推進組織体制

CSR活動の一環としてサクサグループ一体となった環境保全活動を推進するため、持株会社であるサクサホールディングス株式会社に環境保全活動推進委員会を設置し、活動を行っています。



環境保全活動推進委員会は、各グループ企業の代表を含むメンバー構成で、サクサグループにおける中期的な環境計画、年度目標その他環境保全活動における重要事項を審議するとともに、活動の総括を行う機関です。

各グループ企業は、それぞれが独立した実行単位としてグループ全体の計画、目標に沿って、また、独自の視点も加えた目標設定を行い、活動を実施します。

環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況

サクサグループでは、サクサホールディングス株式会社を登録事業者として、グループ企業を含めたISO14001認証を取得しています。

<環境マネジメントシステムの継続的改善>

環境マネジメントシステム運用状況を確認し、適合性、妥当性、有効性を判断するため、年1回下期に定期内部環境監査を実施し、発見された不適合事項、改善事項について、是正、改善を行っています。

また、毎年、環境マネジメントシステム認証機関による審査を受け、客観的な視点からの指摘に対する改善を行うことによって、レベルアップを図っています。

年度末には、各実行部門ごとに、環境目的・目標の達成状況、法規制等の順守状況、内部環境監査の結果等をもとに環境マネジメントレビューを実施し、結果を環境総括責任者へ報告します。

報告された内容を踏まえ、グループ全体の環境保全活動を環境保全活動推進委員会で総括し、環境マネジメントシステムおよび環境に関する計画等に反映し、継続的改善につなげています。



<ISO14001認証取得状況>

<認証機関> 一般社団法人 日本品質保証機構
 <登録証番号> JQA-EM0381
 <登録事業者> サクサホールディングス株式会社

<登録範囲>

登録活動範囲: ボタン電話装置、カード関連機器、ネットワーク機器、セキュリティ機器、その他部品の設計・開発、製造および販売

関連事業所: ()内は、複数の事業場・拠点がある場合における対象サイト

サクサホールディングス株式会社
 サクサ株式会社(本社、相模原、米沢)
 サクサシステムエンジニアリング株式会社(八戸本社、相模原)
 サクサテクノ株式会社
 サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)
 株式会社コヤタック
 サクサテクニカルサービス株式会社
 サクサプロアシスト株式会社(相模原、米沢)

2014年3月19日登録更新

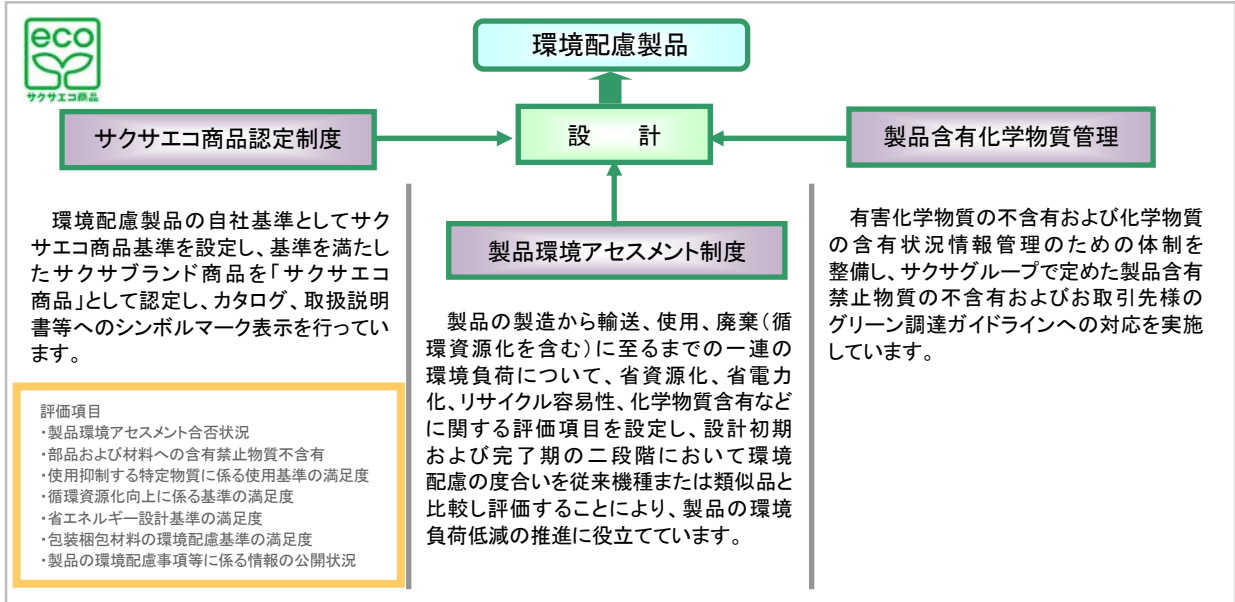
サクサプレジジョン株式会社の子会社である東莞可比世電子有限公司(中国・生産会社)は、審査登録機関AFAQ-EAQA LTD から、ISO14001:2004 認証を受けています。登録番号:GE 07283

製品の環境配慮

製品の環境配慮は、お客様や社会からの重要なニーズと考えています。

製品の設計に際して環境配慮を推進するための制度を設け、環境配慮設計に努めています。

環境配慮設計に関わる制度



サクサグループグリーン調達ガイドライン

サクサグループグリーン調達ガイドラインを定め、サプライヤー様には製品含有化学物質管理で定めた含有禁止物質の不含有をお願いするとともに、化学物質含有情報について提供協力いただいております。

化学物質に関する事項はもとより、環境に配慮した企業から、環境に配慮した物品を調達するための基準を定めています。

サクサグループグリーン調達ガイドラインは、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp/>)の「環境への取り組み」で公表しております。

最近発表したエコ商品

クラウド管理型VPNルータ「ZC1000」

サクサ株式会社

中小規模オフィスにおけるオフィス運営代理人システム「Office AGENT」シリーズの一つとして、ギガビットアクセス対応のクラウド型VPNルータ「ZC1000」を平成26年8月から発売開始しました。

近年、インターネット回線とVPNルータで構成されるインターネットVPNを利用する企業が増加しており、社外にしながらオフィスLANにアクセスできるなど業務効率向上に大きなメリットがある一方、構築や運用には複雑な設定が必要であり、特に専任のシステム管理者のいない中小規模オフィスでは、手間やコストが課題となっています。

「ZC1000」は、これらの手間やコストの大幅な低減を実現した製品です。

初期導入や機器交換時にVPNルータへの設定情報の入力が必要なクラウド管理型なので、事前に設定状況をクラウド側のVPN管理センタに登録することにより、VPNルータ設置時にインターネット接続するだけで設定情報が自動的にダウンロードされ、VPN環境を簡単に構築することができます。

また、高速、快適なインターネット接続環境を実現、外出先や自宅からのリモートアクセスも簡単です。

「ZC1000」は、低電力消費 CPU 採用、イーサネット未使用時に消費電力を低減、また、省エネ機能設定によるランプの消灯などの省電力化を図ったほか、廃棄時のリサイクル容易化など、環境を配慮した設計を行いました。



ZC1000



製品の環境配慮

サクサエコ商品



2014年9月現在の認定商品から主なものを紹介します。

ネットワーク



豊富なビジネスホン機能に加え、
ユニファイドコミュニケーションを実現する新機能を搭載
中小規模オフィス向けキーテレホンシステム
PLATIA (Std/Pro/Ult)



人感センサ標準搭載
Bluetooth カールコードレス電話機
CL720 (Actys II、PLATIA に接続可能)



Bluetooth コードレスホン
WS700 (Actys II、PLATIA に接続可能)



より使いやすく進化した IP フォン
SIP 準拠 IP 電話機
IP NetPhone SX II



複数のネットワークセキュリティ機能を1台に集約
オフィスのネットワークセキュリティを低コストで強化
統合脅威管理アプライアンス
SS1000α [UTM]

NEW



高速で高セキュリティなVPN環境を、
簡単&スピーディに実現
クラウド管理型VPNルータ
ZC1000

セキュリティ



非接触ICカード対応
アナログ電話回線だけでなくインターネット回線接続にも対応
ホームセキュリティ送信機
SHA-5100/SHA-5100C (写真は SHA-5100C)



異常事態をしっかりと感知しスピーディーに通報
ホームセキュリティ向け無線センサ
SRシリーズ
(写真は左から、SR-100 パッシブセンサ、SR-300 マグネットセンサ、SR-400 火災センサ)



インターネット接続によるメール通報、オリジナルメッセージによる音声通報や
非接触 IC カード対応など幅広いサービスを提供
中小規模事業所に最適なオフィスセキュリティ送信機
TS-MT0802 / TS-MT0802C/0802S 送信機
(写真は TS-MT0802C 送信機)



IP網経由で警報や画像を転送
中大規模事業所向け機械警備用送信機
TS-NT1003 送信機

各製品の仕様等については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp/>)の「製品・システム情報」でご覧いただけます。

事業活動に関する環境配慮

地球温暖化防止・省エネルギー

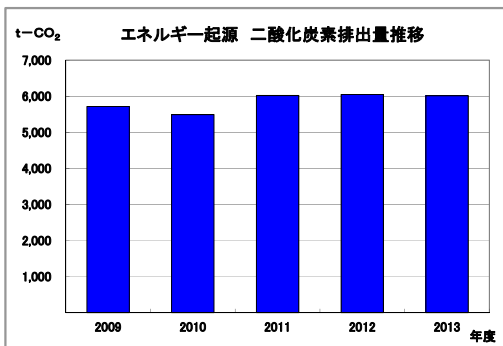
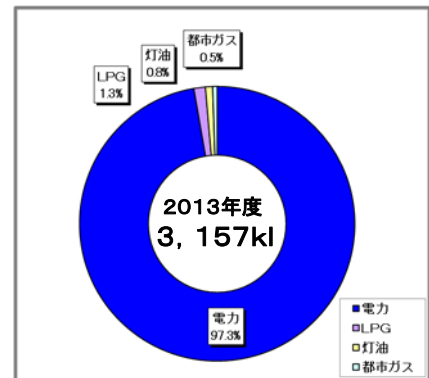
地球温暖化防止および電力需給状況を踏まえ、省エネルギー活動を推進しており、2013年度も前年度に引き続き、エネルギーの効率的な使用に向けた省エネ活動を実施しました。

2013年度のエネルギー使用量(原油換算値)は、前年度比0.4%減となりましたが、事業場の減少による影響を除き同じ事業場数で比較すると、0.3%増でした。2011年の東日本大震災後の節電対策後、ほぼ横ばいで推移しています。

エネルギー使用量は横ばいですが、エネルギー使用効率化の指標として2013年度から導入したエネルギー使用量原単位(事業活動の量に対するエネルギー使用量の割合)では、前年度からの改善率が2%となり、設備導入時の省エネ配慮などが一定の効果あげているものと考えています。

また、LED照明導入、遮熱材による対策など、設備投資に関わる施策については、電力使用量の大きな部分から順次実施しており、今後の効果が見込まれます。

2013年度 エネルギー使用内訳

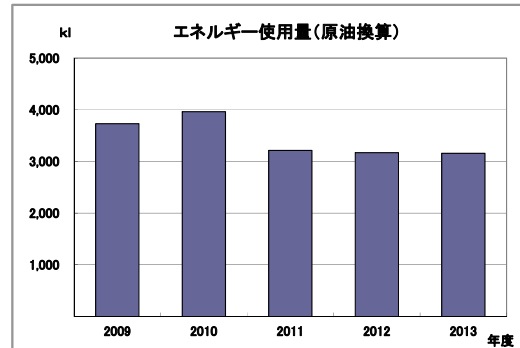


電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、電気事業連合会公表の使用端CO₂排出原単位を使用。2013年度は現時点で公表されていないため、2012年度の値を暫定使用。

なお、上記グラフの2012年度実績については、前回環境報告書の発行以後に電気事業連合会が公表した2012年度使用端CO₂排出原単位で再計算しているため、前回環境報告書の値と異なっています。

注)掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している事業場で、2012年度までは6事業場、2013年度は5事業場です。

対象事業場については、3ページ「環境報告書2014」についてを参照下さい。また、集計対象エネルギーには、構外を走行する車両のガソリン、軽油を含みません。



サクサグループにおいては、エネルギー使用量原油換算値集計の結果、エネルギーの使用の合理化に関する法律に定められた「特定事業者(※)」として指定を受ける企業はありません。

※ 事業者全体の1年度間のエネルギー使用量原油換算値が1,500キロリットル以上であれば、事業者は国へ届け出て、特定事業者の指定を受ける。

廃棄物削減・循環資源化

事業活動により発生する廃棄物について、発生の抑制と循環資源化を図っています。

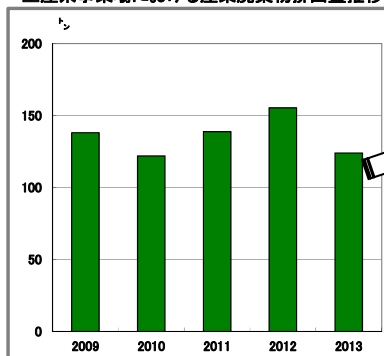
産業廃棄物については、生産系事業場において目標値を定め削減活動を実施しています。

生産状況の変化により2012年度に新たに発生した工程廃水(汚泥)については、2013年度に生産管理および設備管理による改善活動を行い、30トンから7トンへと大幅に減少しました。その他パレットリユースなどの削減活動も功を奏し、産業廃棄物は、前年度から20%の削減となりました。

逆に、2013年度には新たな産業廃棄物として、新製品用に輸入が始まった部品のウレタンフォーム製緩衝材が発生しました。今後も継続的に発生するため、調達先企業様のご協力を得てダンボール製に変更し、廃棄物の削減を図っています。産業廃棄物処理費用の抑制にもつながることになります。

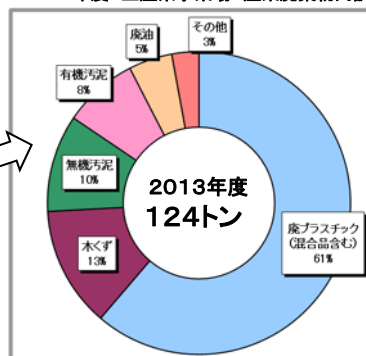
また、事業系一般廃棄物についても、継続的な削減努力により前年度比16%となり、減少傾向が続いています。

生産系事業場における産業廃棄物排出量推移

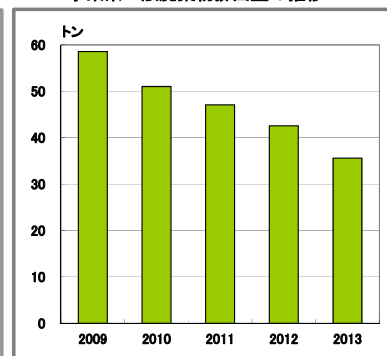


・生産系事業場:サクサ米沢事業場、株式会社コアタック、サクサテクノ株式会社(八幡原)サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)
・産業廃棄物排出量のグラフでは、非典型的に発生する廃棄物は除いています。

2013年度 生産系事業場 産業廃棄物内訳



事業系一般廃棄物排出量の推移



・剪定による切り枝は除く。
・事業系一般廃棄物の集計範囲は、サクサグループが所有している5事業場。(2012年度までは6事業場)事業場については、3ページ「環境報告書2014」についてを参照下さい。

事業活動に関する環境配慮

化学物質管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」には、事業者に対して、化学物質の自主的な管理と一定要件に該当する場合、排出量、移動量を届け出ることが定められています(PRTR制度)。

サクサグループでは、この趣旨を踏まえ適切な管理を行うとともに、可能な限りの使用抑制・削減を図っています。

2013年度の状況において、サクサグループ内では、株式会社コアタックがPRTR制度の届出要件に該当することから、2014年6月末までに届出を行いました。

PRTR届出の状況

届け出を行った事業所の名称 (過去における届け出を含む。)	第一種指定化学物質の名称	年度別移動量(単位:kg) (廃棄物として処理するために当該事業所外へ移動した量)				
		2009	2010	2011	2012	2013
サクサテクノ株式会社(山形県)	鉛及びその化合物	7	—	—	—	—
株式会社コアタック(山形県)	アンチモン及びその化合物	97	178.3	172.3	150.0	140.1

—: PRTR対象物質の取扱量集計の結果、化管法に定められた届出基準に該当しなかったため、届出は行っていません。

サクサプレジジョン株式会社(米沢工場)では、アンチモン及びその化合物について取扱量、廃棄量を集計しておりますが、過去5年間、取扱量が届出基準に達していません。

ポリ塩化ビフェニル(PCB)の管理

ポリ塩化ビフェニルは、難分解性の性状を有し、人の健康および生活環境に有害な物質であり、汚染の拡大を防止するため、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)廃棄物について、保管および処分状況の届け出、期間内の処分、譲渡し・譲受けの制限などが定められています。

サクサグループにおいてPCB廃棄物を保管している事業場では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の定めに従い、PCB廃棄物の散逸、漏洩等による環境汚染が発生しないよう管理しています。

また、現在も使用中の照明用安定器(PCB使用機器)については、使用済となったときに確実に回収するよう管理しています。

2014年3月31日時点において、サクサグループで保管しているPCB廃棄物は下表のとおりです。

なお、処理の早期登録対象機器については、日本環境安全事業株式会社に処理登録済みです。

PCB廃棄物保管状況(2014年3月31日時点)

廃棄物の種類	保管量 ()内は前回環境報告書記載からの増減		
	相模原オフィス	米沢事業場	サクサプレジジョン (米沢工場)
高圧トランス	5台	—	—
高圧コンデンサ	25台	3台	1台(1台増)※
蛍光灯安定器	718個	19個	—
PCB汚染物等	—	4点	—

※ 2013年9月に、東京都北区の旧コピシ電機株式会社(現サクサプレジジョン株式会社)本社社屋から移動しました。

2013(H25)年度の処理状況

保管事業場	廃棄物の種類	数量	最終処分終了年月日
米沢事業場	高圧コンデンサ	7台(542kg)	2013年8月1日

規制遵守状況

法律や条例により規制が定められている事項について、これを遵守し、また、リスクに応じ、規制に該当しない場合でも環境への負荷を最小限に抑えるために、規制に準じた管理を行っています。

2013年度、サクサグループの事業場において、法令・条例の基準値からの逸脱はありませんでした。

事業場	項目	基準値		2013年度測定値 ※1	
		法令・条例の基準値	自主管理値		
相模原オフィス (神奈川県相模原市)	騒音	昼間及び朝夕 (dB)	75	70	65.5 ※2
	振動	昼間及び朝夕 (dB)	70	65	< 40 ※2、※3
米沢事業場 (山形県米沢市)	騒音	昼間 (dB)	70	60	56.0
		夜間 (dB)	55	55	54.0
	振動	昼間 (dB)	65	50	< 45 ※3
		夜間 (dB)	60	—	— ※4

※1 実績値は、年度および測定ポイントの最大値を掲載。

※2 夜間の操業はないため、夜間の測定はしていません。測定は、移動中の「昼間」の時間帯に実施しています。

なお、最大値が出た測定地点の平均値は、52.9dBでした。

※3 当該測定機器の測定限界値以下。

※4 昼間、通常操業中の測定にて測定限界値以下であるため、夜間は測定していません。

事業活動に関する環境配慮

緊急事態への対応

貯油施設等からの漏洩、化学物質の流出などの環境汚染に関する緊急事態を想定し、対応手順を整備するとともに、定期的に訓練を実施して、万が一の場合の影響を最小限に抑え、迅速に復旧できるよう備えています。

また、このようなリスクを回避するため、日常のおよび定期的に監視を行っています。

2013年度において、環境への影響が発生する緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育・啓蒙活動

環境保全活動に関連し、自覚教育や啓蒙活動を継続的に実施し、環境意識の定着・向上を図っています。

新入社員、新任管理職研修のプログラムには環境に関する単元を組み込むとともに、業務用車両運転資格登録者への安全運転講習会におけるエコドライブの意識づけ、製品含有化学物質管理に関する説明会などにより必要な知識の普及を行っています。

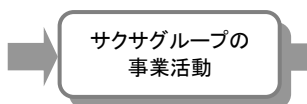
その他、環境マネジメントシステムの内部監査員養成教育を実施し、人材の育成に努めています。

2013年度(平成25年度)環境目標達成状況

環境目標		達成状況	達成状況等
環境に配慮した製品づくり	(1) 製品含有化学物質管理体制の確立		
	製品含有化学物質管理体制の運用と定着化	○	化学物質規制の進展にあわせ、製品含有化学物質管理規程、サクサグループグリーン調達ガイドライン改訂運用定着のためイントラ等を整備
環境に配慮した製品づくり	(2) 環境配慮製品の拡大・充実		
	環境配慮設計関連規程類の運用を通じた製品環境配慮の推進	○	製品環境アセスメント評価の省電力項目の結果改善 従来機種からの消費電力量削減率16%
環境に配慮した事業活動	(1) 地球温暖化防止		
	前年度からのエネルギー原単位改善率 1%以上 (サクサグループ所有 5事業場)	○	改善率 2.4%
	(2) 廃棄物等の削減・循環資源化		
	① 生産事業場における産業廃棄物排出量原単位を前年度より改善	○	改善率 18.5%
② 事業系一般廃棄物排出量原単位を前年度より改善 (サクサグループ所有 5事業場)	○	改善率 17.6%	
環境に配慮した事業活動	(3) 資源の有効利用		
	サクサ株の3事業場全体のコピー用紙購入量を前年度比 5%減	○	13.9%減
環境管理	(1) 環境マネジメントシステムの向上		
	事業活動に密着した課題への取組み推進 管理の見える化、環境改善効果の見える化	○	各実行部門の年度目標、計画策定にあたり、事業活動に密着した設定を推進 (例として廃棄物削減を通じ、コスト削減) サクサ米沢事業場に、図面とデータを一元管理できる施設管理システムを導入など

2013年度(平成25年度)環境負荷物質の投入・排出

資源の投入		環境負荷物質の排出	
エネルギー		大気への排出	
電気	11,940 MWh	エネルギー使用によるCO ₂	6,014 t-CO ₂
ガス(LPG・都市ガス)	31 km ³	廃棄物	
灯油	28 kl	産業廃棄物 ※3	143 t
車両用燃料		事業系一般廃棄物 ※4	36 t
ガソリン・軽油	54 kl	廃棄物に含まれ移動するPRTR対象物質 ※2	0.3 t
水資源			
上水道・工業用水	37 km ³		
地下水 ※1	180 km ³		
化学物質			
PRTR対象物質 ※2	7.0 t		



集計範囲は、サクサグループが所有している事業場。
ただし、車両用燃料は、白金オフィス分を含みます。
対象事業場については、3ページ「環境報告書2014について」を参照下さい。

※1 地下水は、ほとんどを、米沢事業場における冬季融雪に利用しています。米沢事業場のボイラー廃止等により前年度から約30%減少しました。

※2 PRTR対象物質は、10ページ「化学物質管理」に記載した化学物質について、PRTR届出に至っていない分を含め集計したものです。

※3 物品倉庫の整理、設備の廃棄など、非日常的に廃棄した産業廃棄物は、事業活動により排出される廃棄物とは別とし、上記データには含みません。

※4 構内剪定による切り枝は含みません。

社会貢献活動を通じた環境への寄与

サクサグループでは、事業活動に直結した環境保全活動とあわせて、企業の社会的責任としての、社会や地域に貢献できる環境活動も推進しています。

地域社会とともに

各事業場では、近隣企業とも行う清掃活動への参加をはじめとして、地域の美化に努めています。



近隣企業合同清掃(相模原オフィス)



八戸ハイテクパーククリーン作戦
(サクサシステムエンジニアリング八戸本社)



八幡原工業団地 クリーン作戦(サクサテクノ)



八幡原工業団地 中央分離帯花植え(サクサテクノ)

社会貢献活動への参加など



米沢地区のペットボトルキャップ回収、寄付活動

米沢地区のサクサグループ企業では、合同で、エコキャップ回収推進活動を実施しております。これは、NPO法人がペットボトルのキャップを回収し、再資源化で得る売却益で発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る活動に参加するもので、リサイクルの推進に加え、社会貢献の意識も高めようとするものです。

また、サクサグループでは毎年古本を集め、ブックオフコーポレーション株式会社様に送付し、売却金額をボランティア団体等に寄付しています。

ひとつひとつは小さいことですが、少しずつでも社会貢献の意識を高めるよう推進しています。

このほか、環境活動以外の社会貢献として、サクサテクノ株式会社では、地域の子供たちの育成の一助になることを願い、児童、生徒の工場見学を受け入れています。

工場見学を通じ、地元企業について親しみを持ち、理解を深め、郷土に誇りを持ってもらえることを願っています。

また、サクサ株式会社では、永年にわたる米沢事業場体育館の地元スポーツスクールへの貸し出しが、ジュニアスポーツの振興、発展に貢献していると評価され、公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会から「永年支援スポンサー感謝状」が授与されました。



小学生の工場見学(サクサテクノ)



高校生の工場見学(サクサテクノ)



ジュニアスポーツ振興貢献への感謝状